



多摩キャンパスと通学路

2000年1月に多摩都市モノレール線が全線開通してから、20年以上が過ぎた。現在はモノレールが主要な通学路となり、それまでの通学路であった正門や北門を利用したことがない学生も増えている。今回は、多摩キャンパスの通学路の変遷について紹介したい。

多摩移転と通学路の整備

本学は、後楽園キャンパスの理工学部を除き、1978年4月に駿河台キャンパスから多摩キャンパスへ移転した。

移転時に大きな問題になったのが、都心のように交通網が整備されていない中で、1日に約1万人の登下校が想定される学生・教職員の輸送をどのように確保するか、という通学路の問題である。結果として、最寄り駅からの①徒歩と②バスの2つの方法が整備された。

①徒歩の最寄り駅は、多摩動物公園駅である。1978年9月に駅からセントラルプラザに至る徒歩道路が完成し、坂道を登って北門からトンネルを通過してキャンパスに入る通学路が整備された。当時の学生の半数以上が利用しており、いまでも当時の通学路といえば坂道という印象をお持ちの方も多し。

②バスの最寄り駅は、京王線多摩動物公園駅・南平駅・聖蹟桜ヶ丘駅、京王・小田急線多摩センター駅、国鉄(現JR)線豊田駅・日野駅・橋本駅・八王子駅である。西門の近くにバス停留所、正門の近くにバスターミナルが設置され、バスターミナルには大手牛丼チェーン店(現在は他店)が学食を利用できない夜間部(当時)学生のために誘致された。1985年には豊田駅周辺の道路が整備され、豊田駅と本学、多摩センター駅を結ぶ路線バスが開通するなど路線の整備が進んだ。

多摩都市モノレール線開通と通学路の変化

2000年1月に多摩都市モノレール線中央大学・明星大学駅が開業し、2003年には白門ブロード(ペデストリアンデッキ)が完成したことで、駅から直接校内に入ることのできる現在の通学路が整備された。主要な通学路は、正門・北門からモノレール口に移り、その後、Cスクエア、GLOBAL GATEWAY CHUO、FOREST GATEWAY CHUOなどの新しい建物がキャンパスの入口としてのモノレール口周辺に建築されていった。

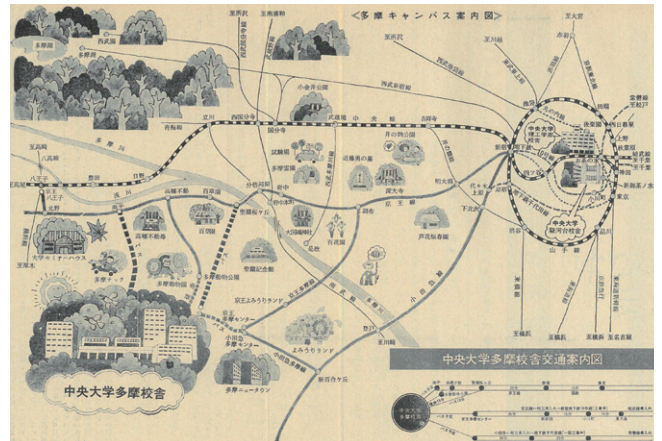
一方で、移転以来通学を支えてきたバス路線は、段階的に縮小されていき、現在は豊田駅と多摩センター駅とを結ぶ路線のみが運行している。多摩動物公園駅からの徒歩通学も減少しており、多摩都市モノレール線の開通によってそれまでの通学路は大きく変化した。

多摩キャンパスと多摩地域の交通網

ここまで多摩キャンパスの通学路の変遷について紹介してきた。最後に、多摩キャンパスの通学路整備の方針を確認することで、通学路の変遷について考えていきたい。

移転時の通学路の整備には、多摩キャンパス周辺の交通網の将来構想があった(『学生諸君へのお知らせ』臨時号、1977年9月)。それは、多摩ニュータウンの中央に位置し、将来的に「本学のメイン駅の一つとなる」多摩センター駅と「輸送ルートの大動脈」である国鉄(現JR)中央線とを結ぶことで、都内23区・多摩各都市から本学へ自由に往来することのできる交通条件を整備することである。1985年に中央線豊田駅と多摩センター駅とを結ぶバス路線を開通した時には、移転当時から多年の念願の実現だとされている(『中央大学広報』第729号、1985年4月)。

つまり、通学路整備の方針は、多摩ニュータウンと都心から多摩キャンパスへ自由に往来できる交通条件を整備することであり、重視されたのが多摩センター駅と中央線なのである。バスからモノレールへと交通手段の変遷はあるものの、1985年のバス路線開設、2000年の多摩都市モノレール線開通により、移転当時の通学路整備に関する将来構想は実現したといえる。



多摩移転時の交通案内
『学生諸君へのお知らせ』No.72、1978年11月24日



北門からの通学風景(1980年頃)



モノレールからの通学風景(2003年以降)